

2018年1月30日

2018年1月開始のTV番組に美術協力

株式会社ニチベイ（本社：東京都中央区、社長：福岡勇之輔）は、以下のTV番組におきまして商品の美術協力を実施しております。

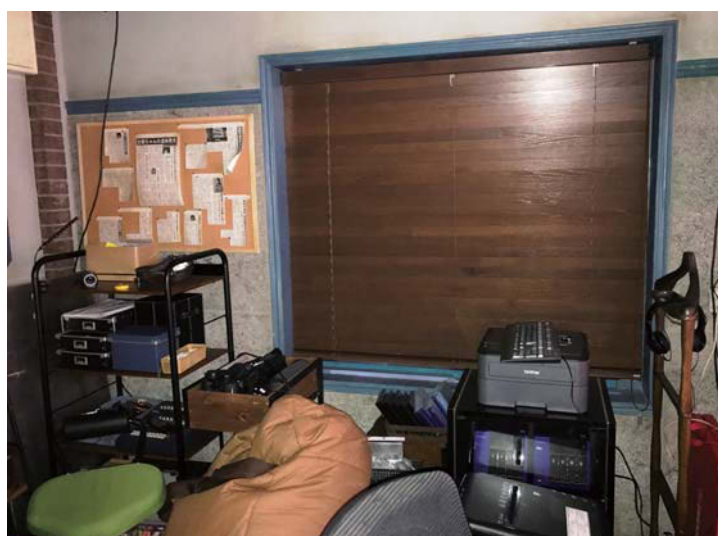
◆FINAL CUT

<https://www.ktv.jp/finalcut/index.html>

メディア	フジテレビ系列
放映日・時間	1月9日スタート 毎週火曜日 21:00～
協力商品	【中村慶介自宅セット】 ★木製ブラインド「クレール 50」 標準タイプ カラー：K512 【テレビ局情報部セット】 ★よこ型ブラインド「ユニーク 25」 標準タイプ カラー：V1054

【ストーリー】

中村慶介は、ある女兒殺害事件で母親を犯人扱いされ、亡くした過去を持つ男。12年後の現在、慶介は事件の真犯人を探し出し、母を追い詰めた者たちへの復讐に動き始める。復讐の矛先が向けられるのは、当時先陣を切って事件の取材・放送にかかわったテレビ番組の司会者、スタッフたち、そして事件の真相のカギを握る姉妹。慶介は素性を隠してターゲットに近づき、公開されるとその人の人生が終わる致命的な映像“ファイナルカット”を突きつけることで、彼らを「ある目的」を達成するため、言いなりにしていく。



中村慶介自宅セット



テレビ局情報部セット

◆99.9 刑事専門弁護士 SEASON II

<http://www.tbs.co.jp/999tbs/>

メディア TBS 系列

放映日・時間 1月14日スタート 毎週日曜日 21:00～

協力商品 【弁護士事務所セット】

★よこ型ブラインド「ユニーク25」標準タイプ カラー：C418（旧柄）

【ストーリー】

あの超型破りな弁護士・深山大翔が帰ってくる！

深山は99.9%有罪とみなされた案件でも、残された0.1%の事実を自らが納得するまでとことん追及する斑目法律事務所の若手弁護士。敏腕弁護士・佐田篤弘とぶつかり合いながらも依頼された事件に隠された事実を暴いていく。

元裁判官の尾崎舞子は刑事裁判の担当としてキャリアを重ねていったが、ある事件がきっかけで裁判官を退官することに。ある日親友の弁護依頼の付き添いでやってきた斑目法律事務所で深山と対立する。そんな彼女が、裁判官を退官するきっかけとなったある事件の裏には、元上司にあたるエリート裁判官の存在があった。その事件とは？そして、チーム斑目は、いずれこの男と対峙することになる――。



◆隣の家族は青く見える

http://www.fujitv.co.jp/tonari_no_kazoku/

メディア フジテレビ系列
放映日・時間 1月18日スタート 毎週木曜日 22:00～
協力商品 【五十嵐宅セット】

★ロールスクリーン「ソフィー」標準タイプ カラー：N7132

【川村・杉崎宅セット】

★ロールスクリーン「ソフィー」標準タイプ カラー：N7016

★たて型ブラインド「アルペジオ」標準タイプ カラー：A7866

【広瀬・青木宅セット】

★ロールスクリーン「ソフィー」標準タイプ カラー：N7150

★木製ブラインド「クレール 50」標準タイプ カラー：K512 / F105

【ストーリー】

さまざまな家族が自分たちの意見を出し合って作り上げる集合住宅“コーポラティブハウス”に住む家族たちの葛藤と成長をハートフルに描く。

スキューバダイビングのインストラクターをしている活発な妻・五十嵐 奈々と、中堅玩具メーカーに勤める心優しいけれどちょっと頼りない夫・五十嵐 大器。そんな彼らはコーポラティブハウス購入をきっかけに子作りをスタート。しかし簡単には子どもは授からず、妊活を始める。彼らをはじめ、それぞれ現代的な悩みを抱えた家族たちと共同空間を共にすることから、プライバシーが保ちづらく、家族構成や互いの問題があけすけになり“隣の芝生は青く見える”といった中で、奈々と大器は個性的な隣人たちや大器の両親、奈々の実の母親らが起こす騒動に巻き込まれていく。



五十嵐宅セット



川村・杉崎宅セット



広瀬・青木宅セット



広瀬・青木宅セット

◆BG ～身辺警護人 BODY GUARD～

<http://www.tv-asahi.co.jp/bg/#/?category=drama>

メディア テレビ朝日系列

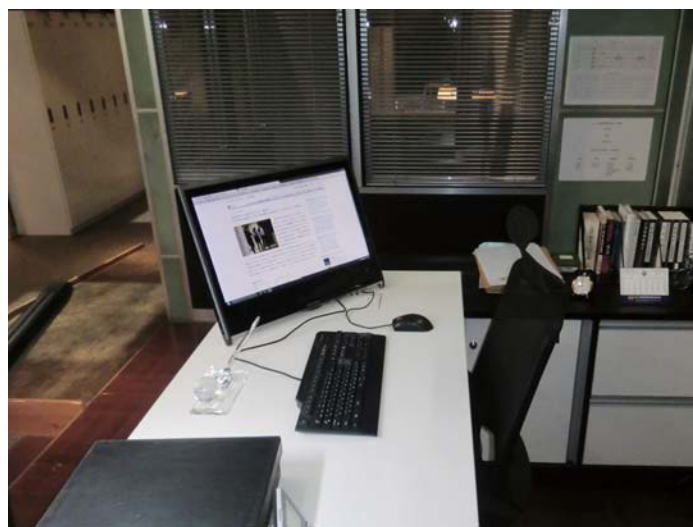
放映日・時間 1月18日スタート 毎週木曜日 21:00～

協力商品 【警備会社セット】

★よこ型ブラインド「ユニーク 25」標準タイプ カラー：V1001 / V1004

【ストーリー】

“ボディーガード”は、拳銃や殺傷能力の高い武器などを一切持たずにクライアントを護る、民間の警護人。民間警備会社のボディーガード・島崎 章は、過去の出来事をきっかけにボディーガードの世界からは身を引き、工事現場の警備員となっていた。しかし身辺警護課の新設を機にボディーガードへの復帰を決意。なぜか、自らのキャリアを隠したままに…。武器を持たない丸腰であっても、常にクライアントの依頼は絶対。危険と隣合わせで任務を遂行する、そんな“究極のサービス業”とも言えるボディーガードたちの熱く、泥臭い戦いの日々を濃密に描く。



以上